

第4回 地域活動報告会 開催概要



はじめに

地域活動報告会は今回で第4回目。COC推進委員会では、具体的な実施計画を平成27年11月11日に決定しました。その後、教授会への報告、委員会での審議を重ねました。また、今回は初めての試みとして学内公募を実施し、学生の参画を得ました。

以上の過程を経て、学生と教職員による「第4回地域活動報告会実行委員会」を組織し、実施に至ったものです。

主催：稚内北星学園大学

会場：新館1301教室

日時：平成28年1月26日(火) 14時30分～16時10分

※ 終了後30分はポスターセッション

●開催の目的

COC事業の個々の具体的事例を共有し、担当者(教職員・学生)を励ます【H27COC事業調書(34)記載の成果目標より】

●発表形式

口頭発表及びポスター発表とし、口頭発表は、主に学生が参画した調書記載事業から選定、ポスター発表は、学内一般公募により、個々の学生、学生団体、教職員の研究、教育、社会貢献活動を発表しました。

●実行委員

武田大貴・石黒志津・鏡山 樹・黒木宏一・寺澤篤史
・中川圭太・三浦 猛・向 光宏

口頭発表要旨

<第1報告：まちなか振興分野>

○報告者

中野 窓香(稚内北星学園大学 メディア表現指導員)

若原 幸範(情報メディア学部 准教授)

○報告題名

「まちなかメディアラボ」から見る中心市街地・商店街

○報告内容要旨

「まちなかメディアラボ(略称:まちらボ)」は中心市街地における学生の教育および自主的活動の拠点、またメディア表現活動等の市民の活動拠点、さらにこれらを通じた中心市街地・商店街活性化の拠点となることを目指して2015年4月にオープンしました。

本報告では第1に、オープン後1年間の「まちらボ」の事業内容を整理し、その成果・課題を報告しました。

第2に、この間の「まちらボ」の事業を通して見えてきた中心市街地・商店街の課題と展望を考察し、今後「まちらボ」が果たすべき役割について報告しました。

<第2報告：地域観光分野>

○報告者

樋口 明日佳

東雲 恭平

MARKOVA KATERINA KONSTANTINOVNA(以上、情報メディア学部情報メディア学科2年)

○報告題名

造形ワークショップ&展覧会「Christmas Exhibition 2015」開催報告

○報告内容要旨

近年、芸術の分野ではアートの持つ創造性を社会に還元する

目的で地域イベントやまちづくりなど地域振興や観光産業振興等に活かしています。稚内北星学園大学ではデザインや映像など芸術分野のメディア表現科目も多数開講されており、その教育成果を地域イベントに参画することで発表しています。

今回は、「マルチメディア表現実習」と「広告制作論」の履修学生が協力し、(株)まちづくり稚内と本学の共同企画「Christmas Exhibition 2015」の作品制作を行いました。その計画から制作、展示及び撤収作業までの記録を報告しました。

<第3報告：地域教育分野>

○報告者

阿部 浩幸

橋本 薫(以上、情報メディア学部情報メディア学科4年)

米津 直希(情報メディア学部 講師)

○報告題名

地域教育支援と教職としての学び

—無料塾、豊富町「学び」の教室 ウィンターチャレンジから—

○報告内容要旨

地域教育支援室では、教職課程の学生を中心として、地域の学習支援活動を続けています。今冬は、本学のまちなかメディアラボにて、小中学校を対象とした無料塾を始めた。また豊富町で、夏の学習支援に続き、冬期期間中の学習支援『「学び」の教室』も開催されました。

本発表ではそれぞれの活動の内容とそこからの学びを学生が発表しました。また、それらの活動が、教師教育にとってどのような意味があると考えられるのかについて、教員から報告しました。



ポスター発表

前回より、地域活動の広がりを背景に、地域活動事例が増加したことから、口頭発表に加えてポスター発表を導入しています。

<ポスター報告1>

○報告者

高 澍 (情報メディア学部 特任助教)
／稚内北星学園大学 学習コンシェルジュ



○報告題名

わくほくメディアラボ及び学習コンシェルジュの運用状況

○報告内容要旨

稚内北星学園大学は学生のアクティブラーニングを促進させるための施設(通称:わくほくメディアラボ)と学習支援を担当する、学習コンシェルジュを配置し、2015年5月から本格的に運用を開始しました。本発表は、今年度前半期のわくほくメディアラボの活用状況と学生の学習コンシェルジュの利用状況を統計的に分析し、その統計情報から学生の傾向を把握し、今後の課題を明確にするための基礎資料とする研究を報告しました。

○報告内容要旨

「まちなかメディアラボ(略称:まちらボ)」は中心市街地における学生の教育および自主的活動の拠点、またメディア表現活動等の市民の活動拠点、さらにこれらを通じた中心市街地・商店街活性化の拠点となることを目指して2015年4月にオープンしました。本発表は今年度のまちらボの利用状況を統計的に分析し、今後の課題を明確にするための基礎資料とする研究を報告しました。

<ポスター報告2>

○報告者

中野 窓香 (稚内北星学園大学 メディア表現指導員)

○報告題名

まちなかメディアラボ平成27年度の利用状況について

<ポスター報告3>

○報告者

WCFわからないコーヒーフェスティバル実行委員会
(代表者:山岸純樹/情報メディア学部情報メディア学科1年)

○報告題名

わからないコーヒーフェスティバル2016

○報告内容要旨

稚内北星学園大学・稚内中央商店街振興組合主催「第1回稚内中央商店街イベントプランコンテスト」において審査の結果優秀賞を受賞し、2月13日に行うことになったイベントの企画提案資料を紹介しました。



出席者へのアンケートから

当日参加された70名のうち50名(71.4%)から回答を得ました。「報告会に来てよかったですか。」との質問に、大変良かった(17.1%)、良かった(56.1%)の回答(当該設問の有効回答数は41)を頂きました。

本学では、昨(平成26)年度からこれまでに、地域活動報告会3回、地域シンポジウムを1回開催しています。今回で「5回目」の参加という方が14.3%、「4回目」が10.2%、「3回目」が28.6%、「2回目」が10.2%、「はじめて」が36.7%(当該設問の有効回答数は49)でした。

総括

第1回から第3回までの来場者は増加傾向でしたが、今回対前回は15.7%減となりました。

本学COC事業は、3年目を迎えます。初動2年の成果とともに、平成27年度地域志向教育研究経費採択課題の成果も仕上がる時期となりました。

次年度は、本学の取り組みの情報発信により一層努めるとともに、それらの活動を教育面、研究面から議論し、量とともに質の向上を図る必要があると感じています。活動とその発信を通じて、稚内・宗谷地域の地(知)の拠点として役割を果たしたいと考えています。

執筆:黒木宏一(本学講師)